

ジョグジャカルタ特別州のプサントレンを基点とするワリアの活動とネットワーク

Waria Activities and Their Social Network in Yogyakarta

坂井美咲(東洋大学大学院、院生)

SAKAI Misaki (Toyo University, Graduate Student)

本研究は、ジョグジャカルタ特別州のプサントレンに集う MtF トランスジェンダーであるワリアをめぐる社会的ネットワークとその意義を明らかにすることを目的とする。

イスラームの教義が深く根づくインドネシアでは、性的マイノリティは差別の対象となることが多い。1998 年の民主化後、性的マイノリティは自らの性的アイデンティティを公表して社会運動に直接参加するようになった。しかしその一方で、イスラーム勢力等による彼女らへの差別も顕在化した。

本研究の対象であるアルファタ・プサントレンには比較的高齢のワリアが集う。報告者は、2020 年、同プサントレンの主宰者らを対象に現地で約 1 ヶ月間の予備調査をおこなった。現在は、SNS 用いた調査を継続している。本発表はこれらの調査に基づく修士論文に向けた報告である。

予備調査では、ワリアたちは社会活動やイベントをおこなう際に人間関係を様々に活用していることがわかった。たとえば健康診断では性的マイノリティに理解のある医療施設からの協力を得ていた。同じく理解のある親戚や友人の仲介により、州内の結婚式や舞踊教室に踊り手として参加し収入を得ていた。これらの活動を支援するアクターには、州内外の NGO や LGBT 支援団体も含まれる。他方、現在進めているライフヒストリー調査からは、どのアクターを選び、関わるのかは、ワリア各人の経歴などによって変わってくるということがわかっている。

本研究では、ワリアをとりまくネットワークとその社会的意義を、民主化以後のインドネシアの政治的文脈に位置づけて動態的に理解しようとする。そのために、彼女たちが民主化をどのように経験してきたのか、そのとき各人がどのアクターと関わりそのつながりをどう活用してきたのかを、事例に基づいて探る。報告では、その作業にかかる 1) 予備調査の結果、2) 進行中の調査の概要、3) 結論の展望を述べてみたい。